

南信州広域連合議会
全 員 協 議 会

平成30年5月25日

南信州広域連合事務局

南信州広域連合議会 全員協議会会議録

平成30年5月25日（金） 午後 1時45分 開議

1. 開会
2. 議長あいさつ
3. 広域連合長あいさつ
4. 報告・協議事項
 - (1) 検討委員会の委員の指名について
 - (2) 検討委員会報告
 - (ア) 総務・文教・消防検討委員会
 - (イ) 環境・福祉・医療検討委員会
 - (ウ) 建設・産業・経済検討委員会
 - (3) リニア中央新幹線について
 - (4) コンベンション施設及び屋内体育施設に関する検討の進め方について
 - (5) (株)南信州観光公社の組織、機能強化について
 - (6) 産業振興と人材育成の拠点整備事業について
 - (7) 調査研究プロジェクトの今年度の取り組みについて
 - (8) 稲葉クリーンセンターの運転状況について
 - (9) 飯田広域消防本部から
 - (10) 議員視察研修について

日程：平成30年10月22日（月）から23日（火）まで

5. 閉会

全 員 協 議 会

平成30年5月25日

南信州広域連合事務局

南信州広域連合議会 全員協議会

日 時 平成30年5月25日（金） 午後1時45分～午後3時10分

場 所 飯田広域消防本部 3階会議室

出席者 熊谷議員、下平副議長、川野議員、小池議員、下岡議員、丸本議員、板倉議員、松村議員、村松（積）議員、原議員、早川議員、高坂議員、熊谷（義）議員、勝野議員、栗生議員、市川議員、大島議員、宮下議員、坂本議員、熊谷（宗）議員、森谷議員、熊谷（泰）議員、湯澤議員、永井議員、福沢議員、木下（容）議員、湊議員、新井議員、清水議長、吉川議員、木下（克）議員、村松（ま）議員、井坪議員、13市町村長、売木副村長、佐藤副管理者、加藤監査委員、市瀬監査委員事務局長、赤羽目会計管理者、高田事務局長、松江事務局次長、関島消防長、大藏消防次長兼総務課長、有賀警防課長、下平予防課長、塩澤警防課専門幹、細田飯田消防署長、高橋伊賀良消防署長、山口高森消防署長、木下阿南消防署長、北原飯田環境センター事務長、加藤書記長、林事務局庶務係、櫻井事務局広域振興係長、秋山介護保険係長、岡庭町村会課長、窪田飯田環境センター管理係長、市瀬業務係長兼飯田竜水園場長、原桐林クリーンセンター及び桐林リサイクルセンター管理担当専門技査、下平消防本部総務課庶務係長、松澤消防本部総務課庶務係

1. 開 会
2. 議長挨拶
3. 広域連合長挨拶
4. 報告・協議事項

No	項 目 名	資料	頁
1	検討委員会の委員の指名について	*	5
2	検討委員会報告 ア 総務・文教・消防検討委員会（湊委員長） イ 環境・福祉・医療検討委員会（福沢委員長） ウ 建設・産業・経済検討委員会（湯澤委員長）	*	5
3	リニア中央新幹線計画について …資料による説明（高田事務局長）	1	9
4	コンベンション施設及び屋内体育施設に関する検討の進め方について …資料による説明（高田事務局長）	2	10

No	項 目 名	資料	頁
5	(株) 南信州観光公社の組織、機能強化について …資料による説明 (松江事務局次長)	3	16
6	産業振興と人財育成の拠点整備事業について …資料による説明 (高田事務局長)	4	17
7	調査研究プロジェクトの今年度の取り組みについて …資料による説明 (松江事務局次長)	5	19
8	稲葉クリーンセンターの運転状況について …資料による説明 (北原飯田環境センター事務長)	6	24
9	飯田広域消防本部から …資料による説明 (関島消防長)	7	25
10	議員視察研修について …日程：平成30年10月22日(月)から23日(火)まで(加藤書記長)	*	26

5. 閉 会

1. 開 会

午後1時45分

(清水議長) それでは、ただいまから全員協議会を開催いたします。

2. 議長挨拶

(清水議長) 本会議に続いてでありますので、議長挨拶等、省略させていただきます。

3. 理事者挨拶

(清水議長) 次に、広域連合長挨拶につきましても省略をさせていただきます。

4. 報告・協議事項

(1) 検討委員会の委員の指名について

(清水議長) 次に進みます。

それでは、4番の報告・協議事項に入ります。

初めに、(1) 検討委員会委員の指名についてを議題といたします。

平谷村村議会議員の任期満了に伴う議会検討委員会の委員が変更となったため、後任者を議長によって指名しますので、その指名を事務局をして報告いたさせます。

加藤書記長。

(加藤書記長) 御報告をさせていただきます。

総務・文教・消防検討委員、11番・早川勝彦議員。

以上でございます。

なお、本日現在における各委員会の名簿のほうを次第の次に添付してございますので、合わせて御確認いただければと思います。報告を終わります。

(清水議長) ただいま、報告がありましたとおり御指名いたしました。

(2) 検討委員会報告

(清水議長) 次に、(2) 検討委員会の報告についてを議題といたします。まず、ア、総務・文教・消防検討委員会の報告を求めます。

湊 猛委員長。

(湊委員長) こんにちは。それでは、総務・文教・消防検討委員会の協議状況について報告いたします。

5月21日に当委員会を開催し、「リニア中央新幹線について」、「コンベンション施設及び屋内体育施設に関する検討の進め方について」、「(株)南信州観光公社の組織・機能強化について」、「産業振興と人材育成の拠点整備事業について」、「調査研究プロジェクトの今年度の取り組みについて」、「稲葉クリーンセンターの運転状況について」、「飯田広域消防本部から」の以上7項目について事務局から説明があり、それぞれ聞きおくことといたしました。

主な質疑について申し上げます。

まず、「コンベンション施設及び屋内体育施設に関する検討の進め方について」では、事業費や財源、あるいは整備後の運営主体といった具体的な部分が見えてこないため、なかなか機運が盛り上がらないのではないかと。そういった部分の情報発信も必要ではないかと、との質疑があり、事務局からは、基本構想・基本計画に、コンベンションや屋内

体育施設を整備するといったことまでは書かれているが、実際にどの程度の機能を持った施設が、この地域にとって一番よいのかという議論を進めていかないと、施設の規模や立地条件等の具体的なイメージが共有されず、またそういったイメージができないと、必要な事業費や財源確保についても見えてこない部分があるため、まだ協議が始まっていない現段階においては、示すことができない、との答弁がありました。

次に、「(株)南信州観光公社の組織、機能強化について」では、圏域全体で見ると誘客人口は伸びていない状況の中で、飯田下伊那として何を前面に押し出していくのか、との質疑があり、事務局からは、指摘の内容は、まさに今、南信州観光公社が、地域連携DMOへの登録を目指していくために検討していることであって、その成果に期待をしている、との答弁がありました。

次に、「産業振興と人財育成の拠点整備事業について」では、事業完了後の施設運営に当たり、以前から、信州大学の講座の次は学部の設置までを目指していく、という大きな目標があったと思うが、これを実現できるような下地といったものはできているのか、との質疑があり、事務局からは、現在の航空機システム共同研究講座は、5年間の期限つき寄附講座であり、期限到来後に、この仕組みがそのまま継続されることはないため、寄附講座が終了した後は、信州大学自身がこの講座を継続していきたい、と思うような実績を示していくことが必要であると考え、そのためには、寄附講座を卒業した皆さんが活躍できるような環境をつくっていくことが重要である。

また、寄附講座のノウハウを生かした新たな共同研究講座を立ち上げるなどして、一定の学生確保が見込めれば、南信州キャンパスの実現も見えてくるのではないかと、との答弁がありました。

以上、報告とさせていただきます。

(清水議長) 説明が終わりました。御質疑は、ございませんか。

(「なし」との声あり)

(清水議長) なければ、本件につきましては、聞きおくことといたします。

次に、環境・福祉・医療検討委員会の報告を求めます。

福沢 清委員長。

(福沢委員長) こんにちは。環境・福祉・医療検討委員会の協議状況について報告いたします。

5月17日に当委員会を開催し、「リニア中央新幹線について」、「コンベンション施設及び屋内体育施設に関する検討の進め方について」、「(株)南信州観光公社の組織、機能強化について」、「産業振興と人財育成の拠点整備事業について」、「調査研究プロジェクトの今年度の取り組みについて」、「稲葉クリーンセンターの運転状況について」、「飯田広域消防本部から」の以上の7項目について事務局から説明があり、それぞれ聞きおくことといたしました。

主な質疑について申し上げます。

まず「コンベンション施設及び屋内体育施設に関する検討の進め方について」では、検討委員会の位置づけと、どこが方向性を示していくのか、との質疑があり、事務局からは、検討委員会は「諮問に対して答申する」といった仕組みは持たず、委員からの意見を集約して報告していく組織であり、その結果を踏まえ、議会とも情報交換を図りながら、最終的に方向性を出していくのは広域連合であると考えている、との答弁がありました。

さらに、リニアが開通しスーパー・メガリージョンが形成されたとしても、この地域にとってよいことばかりとは限らない。人口が流出していくことも考えられる。どうい
うものをつくるかは、多業種の意見を聞く必要があるのではないか、との意見があり、
事務局からは、一口にコンベンション施設といっても、どういう機能を持った施設がど
こに必要なのか、といった部分については、広く意見を聞く意味でも、検討委員会の果
たす役割は大きいと考えており、広域連合としても情報のキャッチボールはしっかりや
っていききたい、との答弁がありました。

次に「調査研究プロジェクトの今年度の取り組みについて」では、ICT環境整備に
ついて、西南部地域のいわゆる「電波の僻地」について、早く改善できるように進めて
もらいたい、との意見があり、事務局からは、町村によって状況や課題も異なるので、
整備方法や費用、財源の確保について、さまざまなシミュレーションを示しながら検証
していききたい、との答弁がありました。

また、民俗芸能保存継承プロジェクトについて、小さな各地の神社のお祭りなどにも
目を向けてほしい、との意見があり、事務局からは、この事業は、もともと国や県の指
定を受けた無形民俗文化財を保存していくための文化庁の補助金や県の事業が終了した
際に、これにかわる支援策として始まった事業であるため、支援対象は限定的で、個別
の各地区の芸能にまでは手が回っていない、との説明があり、その上で、各実施団体の
活動を支援してもらえるような体制づくりについて、県に要望していくことは重要であ
ると考える、との答弁がありました。

また、景観形成プロジェクトについて、飯田下伊那地域は景観維持のための規制が他
地域よりも緩やかであるため、外部資本の乱開発等によって景観が損なわれることがな
いよう、県に対しても全体的な検討を要望し、この地域においても景観条例を整備して
いく必要があるのではないか、との質疑がありました。これに対し、事務局からは、圏
域内における市町村間の足並みがなかなかそろっていないため、広域連合として条例を
整備していくことには、さらに検討が必要であると考えている、との答弁がありました。

以上報告とさせていただきます。

(清水議長) 説明が終わりました。御質疑は、ございませんか。

(「なし」との声あり)

(清水議長) なければ、本件につきましては、聞きおくことといたします。

次に、ウ、建設・産業・経済検討委員会の報告を求めます。

湯澤啓次委員長。

(湯澤委員長) 皆さん、こんにちは。建設・産業・経済検討委員会の協議状況について報告いたしま
す。

5月18日に当委員会を開催し、「リニア中央新幹線について」、「コンベンション
施設及び屋内体育施設に関する検討の進め方について」、「(株)南信州観光公社の組
織、機能強化について」、「産業振興と人材育成の拠点整備事業について」、「調査研
究プロジェクトの今年度の取り組みについて」、「稲葉クリーンセンターの運転状況に
ついて」、「飯田広域消防本部から」の以上7項目について事務局から説明があり、そ
れぞれ聞きおくことといたしました。

主な質疑について申し上げます。

まず「リニア中央新幹線について」では、平成29年9月に開催された、スーパーメ

ガリージョン構想検討会において、伊那谷にとって参考となるような意見や話題などがあつたか、との質疑があり、事務局からは、総論的な話題にとどまっており、特に個別具体的な内容が話題に上ることはなかった、との答弁がありました。

次に「コンベンション施設及び屋内体育施設に関する検討の進め方について」では、検討委員会の委員について、自分たちの思いだけを主張する、といったことにならないよう、注意が必要ではないか、との質疑があり、事務局からは、検討委員会の委員の選出に当たっては、候補地の代表者ではなく、施設を利用する側から見てどこが最適なのか、という観点から各候補地について客観的に比較、検討していただけるような人選に配慮していきたい、といった答弁がありました。

また、検討委員会の委員の数はどれぐらいか、との質疑があり、事務局からは、おおむね20人以内を想定している、との答弁がありました。

また、隣接地域との情報交換はどうなっているか、との質疑があり、事務局からは、県レベルでの協議会はできており、飯田市と中津川市においては、首長同士のつながりができている。今後はそれぞれの分野ごとのつながりも必要となってくると思われるので、検討していきたい、との答弁がありました。

また、宿泊施設についてどう考えるか、との質疑があり、事務局からはコンベンション及び屋内体育施設といった施設整備には宿泊機能の話はついて回るが、この地域で大規模な宿泊施設が本当に必要かどうかについて、今ある機能をどのようにしていくことが望ましいのか、といった広い議論が必要で、コンベンション及び屋内体育施設だけで方向性が決まるものではないと考えている、との答弁がありました。

また、提供された候補地10カ所について、地権者の問題をどのように解決し、いつごろまでに調整していくのか、との質疑があり、事務局からは、候補地提供の段階では必ずしも地権者の了解は求めておらず、この地域に必要なコンベンション及び屋内体育施設の機能はどういうもので、どのような規模、場所がふさわしいのかといった検討が進まなければ、具体的な候補地も見えてこないため、現時点においては、地権者との調整といったことはまだ想定できない、との答弁がありました。

また、旧飯田工業高校の施設はコンベンションなどに活用できないのか、といった質疑があり、事務局からは、旧体育館に500人を収容できるホールが完成する見込みで、三菱UFJリサーチ&コンサルティングの加藤先生からも同様の指摘があり、大事な視点と考えている、との答弁がありました。

次に「(株)南信州観光公社の組織、機能強化について」では、飯田観光協会と、地域連携DMOを目指す観光公社の業務が重複し、調整をしていかないとうまく機能しないのではないか、といった質疑があり、事務局からは、南信州観光公社は下伊那の14市町村と、幾つかの法人が出資して立ち上げた株式会社であり、体験旅行を主としながら、この地域全体の観光をよくしていくためには何が必要か、といった企画及び方向性を決めていく上で重要な役割を担っている。その一方で、観光事業者の皆さんが行っているさまざまな活動を調整し、取りまとめていく役割も含め、観光協会や飯田市の観光課がどのようにかかわっていくことがよいのか、検討していく必要があると考えている、との答弁がありました。

以上報告とさせていただきます。

(清水議長)

報告が終わりました。御質疑は、ございませんか。

(「なし」との声あり)

(清水議長) なければ、本件につきましては、聞きおくことといたします。

(3) リニア中央新幹線計画について

(清水議長) 次に、(3) リニア中央新幹線についてを議題といたします。理事者側の説明を求めます。

高田事務局長。

(高田事務局長) それでは、資料ナンバー1でもって、リニア中央新幹線について、最近のものについて報告をさせていただきます。

資料ナンバー1、2枚ございますが、1枚目は、リニアに関する国等の動きについてということでございまして、2つの検討会について記載なされております。これは、県から資料提供があったものでございます。

1番は、スーパー・メガリージョン構想検討会ということで、国が、特に国土交通省が中心となって検討が進められております。これは有識者から御意見をいただきながら、リニアの整備効果を引き出すためにスーパー・メガリージョンと言われておりますそういうベルト地帯の経済的あるいは広域的な機能は、どうあったらいいんだろうかということを検討するということでございます。

開催状況については、ごらんをいただきたいと思えます。

裏面をごらんいただきたいと思えます。リニア・モビリティ革命と都市・地域フォーラムでございますが、これは、民間の主導で始まった検討会でございます。リニア中央新幹線を初めとして新たな交通革命ということが言われておるわけでありましてけれども、そういう時代の中で地方都市のあり方等について検討しようということが、そういうところでございます。

これが一般社団法人エコまちフォーラム、あるいはエックス都市研究所というような民間が主体となりながら建設会社、あるいはいろいろな研究者が入っているという、そんな研究体でございまして、この中に当地域にもゆかりのあります小沢一郎先生も体制メンバーとして加わっておられるということでございます。

続きまして、2枚目でございますが、知事とJR東海・柘植社長との懇談概要ということで、去る3月12日、県庁で開かれております。29年度2回目、通算で3回目という、長野県知事とJR東海トップの会談ということでございますが、今回、この中を見ていただくと、大きくは3点のテーマになっております。

1つは、松川インター大鹿線の土砂崩落に関する事。それから発生土の問題や環境対策、防音対策等、個別の課題に対する事。それから観光振興というような大きな、この3点について意見交換がされたということでございます。

裏面のほうにJR東海の社長の発言もございましてけれども、とにかく地元との顔の見える環境をしっかりとつくっていきたいんだというようなことでございまして、大きく個別の課題について踏み込んだということではないようでございますけれども、さらにこうしたことを積み重ねていくということ、それから、観光振興については、信州DCの後でございまして、引き続きやっというふうなことで確認をされたようでございます。

それから、長野県知事のほうから、長野県駅への1時間に1本停車というようなこと

も含めて、それから美乃坂本駅への在来線の特急停車などについて要請をしたということでございますけれども、これについては、開業までにとということでございます。

それから、JR東海は、社長が交代になりますけれども、新年度も金子社長のもとでも、引き続き、この場を設けていくということで確認をされたようでございます。

以上、報告とさせていただきます。

(清水議長) 説明が終わりました。御質疑はございませんか。

(「なし」との声あり)

(清水議長) よろしいですか。なければ、説明のございましたリニア中央新幹線については聞きおくことといたします。

(4) コンベンション施設及び屋内体育施設に関する検討の進め方について

(清水議長) 次に、(4) コンベンション施設及び屋内体育施設に関する検討の進め方についてを議題といたします。理事者側の説明を求めます。

高田事務局長。

(高田事務局長) それでは、資料ナンバー2をごらんをいただきたいと思いますが、この資料ナンバー2の下に資料ナンバー2-2、それから2-3、2-4、2-5というふうに資料があるかどうか御確認をいただきたいと思いますが、資料ナンバー2を見ていただきながら、必要なところをそれぞれ説明をさせていただきたいというふうに思っております。

この検討につきまして、1番であります。提供された情報についてということで、1月以降、候補地についての情報提供を求めてまいりました。ここに書いてあります候補地としては10カ所、飯田市から8カ所、それから高森、阿智、喬木村から各1カ所ですが、飯田市の1カ所と阿智村の箇所が同一箇所ということで、候補地とすると10カ所という整理をいたしております。

それから、屋内体育施設、コンベンション施設、それぞれに重複がございますので、3カ所が重複をしておりますので、13という数字になりますけれども、箇所数でいくと10カ所ということでございます。

資料ナンバー2-2であります。これは、A3を折り込んでございますけれども、今、申しあげました13の箇所につきまして、それぞれ情報提供いただいた情報を整理したものがA3で2枚ございます。

それから、その次に図面がつけてございます。この地域の図面の中に丸数字で受け付けの番号を落とし込んだ図面がついておりますが、そこで場所を確認をいただければというふうに思っております。3カ所について、複数の番号が入ったところがございますが、同一箇所であったり、あるいはコンベンション施設、体育施設両方に候補として情報があるということがございまして、この丸の数でいくと10カ所、そういうことで整理をしたところがございますので、御確認をいただければというふうに思います。

それでは、また資料ナンバー2の一番頭へ戻っていただきまして、2番であります。検討の進め方スケジュールについてということございまして、今年度どこまで検討するかということで、一応、到達点、目標を定めたいと思っておりますが、年度末までには施設の設置場所及び概要を整理をしたいということで、ここに向けて検討を進めていきたいと思っております。

この資料ナンバー2の裏面をごらんをいただきたいと思っております。広域連合会議以下、

いろいろな検討の場面ごとにスケジュール感をお示しをしております。広域連合会議では、まず基本的な考え方を整理をし、それから検討委員会の検討に委ねながら関係する事業との調整、あるいは検討委員会の検討を踏まえた広域連合会議としての概要の整理をしてまいりたいと思っております。

それから、検討委員会は、この議会も6月以降にお願いをしながら広域連合会議で整理をした基本的考え方や情報提供いただいた候補地に関する評価をしていただき、最終的には検討委員会として整備案等についてもおまとめいただければというふうに思っております。

それから、検討委員会の検討をしていただきながら、意見聴取ということで、広く群市民の皆様から御意見を頂戴すること、あるいは候補地の情報提供をいただいた市町村、あるいは関係する機関・団体等、広く意見を聞く場を設けながら、しっかりと御意見をいただきながら検討委員会や広域連合会議へフィードバックしていきたいというふうに思っております。

それから、広域連合議会ではありますが、これは、きょうを皮切りといたしまして8月、11月、2月、それぞれその時々々の会議がございますので、そこでその時々々の状況を報告をさせていただきたいと思っております。

今年度のまとめとすれば、2月の広域連合議会の定例会の予定をされますが、そのときが今年度の概要の整理をするときかなということで、それまでに整理をして議会側に報告を申し上げたいというふうに思っております。

事務局の調査は、それぞれの検討に必要な部分をそれぞれ事務局とコンサルと共同で資料を作成をし、つくってまいりたいと思っております。

それから、時期は定めておりませんが、下のほうにありますように長野県との協議、あるいは伊那谷自治体会議、リニア駅周辺整備デザイン会議等の調整が、これから必要になってまいりますので、これにも取り組んでまいりたいと思っております。こうした進め方で進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

それから、もとへ戻っていただきまして、広域連合としての基本的な考え方を整理することというのは、3番でやります。これにつきましては、後ほど資料ナンバー2-3、2-4、2-5ということで、5月の広域連合会議の内容も含めて一番最後に説明をさせていただくこととして、まず次に4番ですが、検討委員会の委員のメンバー構成についてということで、今現在、こうした団体に委員の推薦をいただきたいというふうに思っておりますのが、そこにありますように、この施設を想定をした利用者の皆さんや地域の経済団体、あるいは青年会議所等々、若手の皆さんも含めてというふうに考えております。これからの将来のことでもありますので、高校生や団体生等の若年層や、それから女性の御意見をしっかりといただけるような、そうした委員の構成を考えていきたいと思っております。

それから、今まで、これまでいろいろな場面で、構想検討の場面で有識者から御意見等いただいて参画をいただいておりますけれども、そうした皆さんには、検討委員会の状況をお知らせをして助言を受けるような形で外からの御意見を頂戴してまいりたいというふうに思っております。

それから、5番ではありますが、資料作成の業務委託ということで、先ほど予算をお認めいただきましたけれども、私ども事務局と共同で、しっかり外の正確な客観的な情報

をしっかりと事前調査をしていただくということ、それから当地域の状況をしっかりと見ていただいた上で、外とのすみ分けですとか、そうしたことをしっかりと整理するための資料整理をしていきたいと思っておりますし、それから規模ですとか、そういうことを考えていくときに、どうしても事業費や財源の調達等の検討も必要になってまいりますので、そうしたこともしっかりと資料作成をしてみたいというふうに思っております。

こんな進め方でいきたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

資料ナンバー２－３以降でもって、５月１５日に広域連合会議で議論をした状況について、報告をさせていただきたいと思えます。

まず、資料ナンバー２－３でございますが、これは、今までのこの地域での検討の整理をしたものでございます。その面に「リニア将来ビジョン」平成２２年１１月に発表になったものでありますが、この地域のリニアの通るこの地域の将来像を小さな世界都市、あるいは多機能高付加価値都市圏というような表現で対外的に目指す姿を描いております。これに基づいて進んでいこうということで、ちょっと見開きを開いていただきたいというふうに思えます。

上段に広域連合としての取り組みがありますが、「リニア将来ビジョン」が平成２２年１１月でございました。それを具体化するために、平成２７年３月に広域連合の「基本構想・基本計画」を定めておりますが、その中で定住促進を目指しながら基本計画の中で望まれるインフラとしてコンベンションセンター、あるいはスポーツ施設について検討を進めるという、そういうことになっております。

これは、広域連合としての今までの整理でありますけれども、それと関係をいたしますもう少し広い視野で見たときにどうかということではありますが、左下、長野県の状況でありまして、２６年３月に「リニア活用基本構想」ということで、県内ルートが一本化した後に、そのルートを踏まえて長野県全体としてリニアをどう活用するかという構想が２６年３月に発表になっておりますが、その中で広域観光の推進の中でリゾートＭＩＣＥの誘致というようなことで受け入れ体制の整備についても検討していこうということが、県の活用基本構想で記されております。

それから、その右側であります、「しあわせ信州創造プラン２．０」これは、この３月に発表になった県の５カ年計画であります。その中で各地域振興局ごとに目標が定まっております。南信州地域は、伝統と最先端が響き合う「リニアの時代」のフロンティアというようなことで表現がありますが、その一番下に交流を促進するまちづくり・交通基盤整備という中にリニア開業を見据えたコンベンションセンター・アリーナ等の整備について、広域連合とともに検討という形で、県の地域版の計画に記載がされているところであります。

それから、その右側でございますが、これは伊那谷自治体会議が平成２８年２月に発表した「リニアバレー構想」でございます。伊那谷自治体会議には、伊那谷の３市と、それから上伊那と南信州の広域連合の代表が加わって長野県知事が代表で検討している会議であります。その中で「リニアバレー構想」が発表になっております。これも一番下であります。世界から人を呼び込む感動フィールドということで、その中に豊かな自然と実績を生かした国際交流、国の内外からさまざまな会議を誘致するなど、国際交流を推進するんだというふうな表現がございます。

それから、一番右には飯田市として「リニア駅周辺整備基本計画」ということで、リニア駅周辺整備について、飯田市が検討を進めておられますが、その中で29年、今年の6月に基本計画が発表になっておりまして、その中にリニアによるまちづくり戦略ということがございます。その中に国際大会が開催できるスポーツ施設、あるいは国際レベルの会議が開催できるコンベンション施設というような形で表現がされておりまして、広域連合とともに検討というふうになっておるとい、そういう状況でございます。

一番最後のページを見ていただきたいと思いますが、5月15日のときに、こうした今までのこの地域の検討を踏まえて、ぜひ広域連合会議でこの検討を進めるに当たって、こんな視点で検討をお願いしたいということで整理をしたページでございます。ここを読ませていただきますが、リニア時代の当地域の将来像を具体的に「グランドデザイン」として描く中で、真に必要な機能を改めて整理した上で、新たに施設を整備する場合の機能・規模・配置等の考え方をまとめていきましょう、ということございまして、コンベンション施設の検討の視点、それから屋内体育施設の検討の視点、それから、それらどういう施設を整備するかにおいても全体にかかわる視点ということで、波及効果もしっかり広がるように、それから持続的に安定的に運営ができる持続性という点についても、視点としてきちんと持って検討していきましょうということでお願いをしてもらっております。

資料ナンバー2-4に移りますが、2-4は、その5月15日の広域連合会議のときに、まずは外からお話を聞きましょうということで、三菱UFJリサーチ&コンサルティングの加藤義人先生にお越しをいただいて1時間のお話を聞いたところであります。

加藤先生は、先ほどのリニア将来ビジョンを策定するときの有識者会議のメンバーでもございまして、その後、ずっとこの地域にかかわっておっていただいて、この地域をよく知っておっていただく中で、このお話をいただいたところでございます。

この講演の内容について少し整理をさせていただいて6月に向けて、こんな検討を進めていきたいというのが資料ナンバー2-5でございます。

最後の資料ナンバー2-5を少し御説明をさせていただきますが、そこに1番として加藤氏の講演のポイントということで整理をいたしております。

この資料のナンバー2-5という1枚紙でございます。

加藤氏の講演を少し整理をいたしました。まず(1)としてリニアのもたらす環境の変化ということであります。時間距離が大幅に短縮をして2時間圏で行ける範囲の人口が大幅に増加をする。それが、例えば名古屋起点、大阪起点、神奈川起点ということで、そのポイントを落としていくと、そこにスーパーメガリジョンができ上がるということでございます。例えば、リニア長野県駅を発として見たときに、2時間圏の人口が、今、2時間圏で行けるエリアの人口287万人ということでありますが、それが名古屋開業時には4,200万人、それから大阪開業時には5,500万人になるという、そういう推計があって、この南信州地域の立地条件が劇的に変わる。交流が非常に容易にできる地域になるんだという、そういう環境変化の話がまずございました。

こうした点を踏まえて、コンベンション機能を整備することに向けての視点ということで、幾つか御指摘がありました。

まず、アといたしまして、リニア開業による立地ポテンシャルの活用ということで。さっきも申しましたが、飯田市を起点とした2時間圏が飛躍的に拡大をするということ

で、広域交流の舞台になるということ、それから三大都市圏からのアクセス性がバランスよく非常に良好だということで、どこの大都市圏もマーケットにできるということですので、交流機能としてコンベンション機能の検討は有効であるということでございます。

ただ、その段階で、検討の段階で留意をするべきこととして、ただしコンベンション機能は、リニア沿線の競合が激化するおそれがあるという御指摘がありまして、いただいた資料の中でも山梨県駅でも、それから神奈川県駅でも名古屋でもコンベンションに関する計画があるというようなお話もございました。

それから、ですからまず南信州地域の特徴を、この地域のイメージを大事にして、そこを意識をした施設の検討をすべきだということ、それから、コンベンションの機能をと考えるときに宿泊機能との連携であったり、あるいはほかの機能との動線の確保というようなことを一緒に考える必要があるということをお指摘をいただいています。

それから、もう一つの視点として、コンベンション機能のすみ分けが重要という指摘でございます。これは、地域的なすみ分けがありまして地域内のすみ分けもあるわけにありますけれど、まず御指摘があったのは、大規模な国際展示場・会議場は地方では不利だと、これはもう大都会にかなうことはないの、逆にコンパクトであることのほうが稼働率が上がる可能性がある。それから、他地域、ほかの駅でどんなことがあるのか、あるいはほかの今ある施設との他地域とのすみ分け、あるいは地域内での既存施設のすみ分けで、例えば、今、産業センター移転を目指して、工業高校を整備をいたしておりますが、その中にもホールや会議場ができるということがありますので、そうした施設とのすみ分けも含めて地域内をよく見るということが大事だという指摘がございました。

こうした講演を5月15日にいただいたわけでありまして、これを受けて6月に再度、御講義をいただきたいと思っておりますが、そこに向けての論点整理をしたのが2番であります。

基本的な考え方として何を整理をするかというところは、これはもうリニア時代の当地域の将来像を実現するという、そういう視点に立ったときに必要な機能は何なのかと、そういうことでございます。

ここへいく整理をしていく上での論点として、3つほど上げております。将来的に何が必要かということですが、この時点で、今、当地域ではどうなのと、あるのかわからないのか、あるいはあるとしても当地域にある既存のストックはどうなんだと、そういう視点の検討が大事だということがあると思います。これは、機能面での検討かというふうに思っております。

それから、2つ目ですが、この地域内に限らず伊那谷全体に効果を波及させていくという、そういう視点からの検討が必要なわけですが、そうしたときに施設の配置ですとか、あるいは動線のことですとか、それから機能分担というようなことを検討する必要があるということ。

それから、3点目として持続的に経営ができるということが非常に大事になってきますので、そうした視点で複合化のことですとか規模のことですとか、ということも検討していく必要があるというふうに思っております。

これらの整備をしていく上で、必要な資料として次回までに事務局のほうで当地域に

ある既存機能について整理をし、図面に落とししていくという作業をします。それから他地域の複合施設のイメージ、稼働状況、あるいは運営の状況等について、コンサルを介して資料収集に当たりたいというふうに思っております。

こうした形で、本日、見ていただいた上で6月にしっかり議論をして、またこれについてのまとめた部分を、また議会側に報告をさせていただければというふうに思っておりますので、よろしく願いをいたします。以上でございます。

(清水議長) 説明が終わりました。御質疑はございませんか。

井坪 隆君。

(井坪議員) 33番です。壮大な計画で楽しみなんですけども、現時点で考えられること、それから意見として2つの大きな課題があると思います。

1つは、先ほどの委員長報告にもありましたけども、要するに財源の問題や経営主体、この辺がはっきりしてない中で非常に地域のコンセンサスが得にくいのではないかと、という御意見、それからもう一つは、今、事務局長から説明がありましたが、専門家が見るこのコンベンション施設に対する非常に厳しい見方、つまりインフラの整った都市部に比べて、この地域では大変施設整備は慎重であるべきだと、この2つの大きな課題が、私は現時点では考えられるというふうに思っています。また、ちまたでは大きなものを2つもつくるのかという非常に俗っぽい御意見があります。

そこで、一応ここで、きょうの段階で確認しておきたいんですが、選択肢の一つとして2つともやろうか、あるいはどちらか一方に絞ることもあり得るのか、現時点での考え方をお聞きしたいと思います。

(清水議長) 牧野連合長。

(牧野広域連合長) このコンベンション施設及び屋内体育施設に関する検討の進め方につきましては、先ほど事務局長のほうからお話をさせていただきました。いろんな御意見は、もちろん私も承知しておりますし、検討委員会におきましても御議論をいただいていることに対して改めて敬意と感謝を申し上げるところであります。

ただいま、井坪議員からお話がありました2つ進めるのか、それとも1つに絞ることもあり得るのかと、これはまさにそういったことも含めてこれからの検討となるわけですが、当然、コンベンション施設の特徴といたしまして、そうした機能をどういうふうな形で考えていくかということを考えてときに、1つに絞れることもあり得る、あるいはこのコンベンション施設等体育施設それぞれにつきまして、こういうふうに考えていくという考え方もあるかもしれない、これを今、どういうふうにとということについては、まさにこれからの議論だと思っています。当然、そうした中で2つが1つになるということもあり得ると私も思っています。

(清水議長) 井坪 隆君。

(井坪議員) 2つが1つになるということもあり得るだろうし、2つではなくて1つだということになるのかもということもあるかというふうに思います。そういうふうを受けとめさせていただきたいと思うんですが、大体において、行政というのは基本計画に書いたことをどんどん進めようとするのが常でありますし、それでもいいと思うんですが、少なくとも南信州の広域連合でつくった基本計画は、もう策定の最後の段階からすると5年も前の話なんです。5年も前の話が何が何でも進めようという姿勢ではないほうがいいのではないかと、むしろ今、連合長の言うようなフレッシュなスタイルで検討を進めて

いくことが大事だというとお思います。

私自身も地域振興や、あるいは基本計画をちゃんと進めるということでは、この計画自体には反対ではないですし、むしろ慎重に推移を見守ってほしいと思うんですけどもですね。最終的に議会というのが、財源を伴った議案を審議するわけですので、その辺がきちんと我々に示されるようなものでないと、私どもは多分、議案に対しては厳しい姿勢で臨まなくてはならないだろうかというふうに思っています。

そこで、ぜひ、南信州の身の丈に合った施設を考えるということの大前提に、いい方向を見出してもらいたいなと思いますし、先ほどの本会議で調査費が計上が可決されました。これをもってよしとせずに、ぜひ慎重な審議をお願いしたいと思います。

(清水議長) 牧野連合長。

(牧野広域連合長) ありがとうございます。

慎重な審議というのは、これは当然だというように思っております。また、5年前ということで、お話がありましたが、まさに今、この基本構想・基本計画の期間中において、構想に沿った検討というのは、これはやはりしっかりとやらなきゃいかんという、そういった立場であります。

加藤先生のお話を聞いていてもですね、幾つも課題がある一方で、当地域のポテンシャルについても述べていただいています。将来に向けてですね、どういった地域でこの地域を捉えていったらいいかということを中心にしながら、このコンベンションあるいは体育施設の機能ということについての検討を慎重に進めていくことができればと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

(清水議長) 他にございませんか。よろしいですか。

(「なし」との声あり)

(清水議長) なければ、説明のございましたコンベンション施設及び屋内体育施設に関する検討の進め方については聞きおくことといたします。

(5) (株) 南信州観光公社の組織、機能強化について

(清水議長) 次に、(5) (株) 南信州観光公社の組織、機能強化についてを議題といたします。理事者側の説明を求めます。

松江事務局次長。

(松江事務局次長) それでは、資料ナンバー3、南信州観光公社の組織・機能強化について御説明いたします。

資料ナンバー3の資料につきましては、(株) 南信州観光公社のほうでお作りいただいた「南信州観光公社の新しい体制と当面の課題解決に向けて」という資料でございます。これに沿いまして御説明いたします。

1枚おめくりいただきますと、図がございます。これが、観光公社の組織図でございます。左側の紫色の囲いが観光公社の組織でございます。この4月に、ここのピンクにあります地域振興室という新しい組織ができ、3名の社員が新しく入って取り組まれております。これは、地域連携DMOの登録をふやす部署ということで、今年度中の登録を目指しております。

地域連携DMOといいますのは、観光地域づくり組織ということで、行政とか観光業者であるとか、観光地・市民・住民等が協働しながら観光地域づくりを進める、そのか

じ取り役となる組織という形で機能するものということでございます。図にありますとおり、右側の行政初め地域住民、いろんな皆さんと調整・連携しながら観光地域づくりに取り組んでいくというようなものでございます。

2枚目、南信州観光公社が目指すものというところをごらんいただきたいんですが、ここに四角で書いてありますが、下の4つの黒い四角につきましては、これまでの観光公社が取り組んでおられた事業ということで、特に体験教育旅行でありますとか、修学旅行の受け入れ、体験教育旅行につきましては、全国の先進地としてしっかり頑張っやとるというものでございますが、さらに加えて、その上の透明な四角の事業をこれから展開していこうというものでございます。

一番上の四角が、地域連携DMOの登録を目指すんだということで、その下からの四角につきましては、それに関するものという形で書いてあるものでございます。特に、2行目にあります、そのため市場調査と分析によるマーケティングを実施するというふうでございますが、勘に頼るマーケティング観光戦略ではなくて、きちんとしたデータに基づいて戦略を立て、目標値をつくり戦略を立てていくというようなことでございまして、これの市場調査につきましては、南信州地域振興室、振興局や、あるいは市町村の皆さんに御協力いただきながら調査してまいりたいというふうに考えておるものでございまして、もちろん調査で得られた成果につきましては、各市町村のほうにもお返ししまして、各市町村の皆さんの観光振興にお役立ていただけるものというふうになっております。3行目にございますように、南信州を旅の目標地化するというのが大きなテーマでございます。

4行目にあります一般旅行者、あるいはインバウンド、いうものも広く対象にしていると、そして白四角の一番下にあります持続可能な地域づくりに貢献するというのが、目的でございます。

最後のページをごらんいただきますと、そのために、地域振興室で当面行う活動ということが書いております。DMO登録に向けた準備を進めていくわけでありましてけれども、実際にDMOの登録というのは、要件を満たしておればということになるんですけども、その要件というのが、もう既にしっかり取り組んでおって、ある程度の成果が上がっておるところが大切になってまいりますので、登録ができてから取り組みを始めるということではなくて、さまざまな企画書づくりでありますとかツアーの造成でありますとか地域連携でありますとか、そういったことに取り組んで、その成果でもって登録がされるというものでございます。

広域連合としましても年度内のDMO登録ができますように、しっかりと支援・協力していきたいというふうに考えております。

説明は、以上でございます。

(清水議長) 説明が終わりました。御質疑はございませんか。

(「なし」との声あり)

(清水議長) なければ、説明がございました(株)南信州観光公社の組織の強化については聞きおくことといたします。

(6) 産業振興と人財育成の拠点整備事業について

(清水議長) 次に、(6)産業振興と人財育成の拠点整備事業についてを議題といたします。理事

者側の説明を求めます。

高田事務局長。

(高田事務局長) それでは、資料ナンバー4をお願いいたします。産業振興と人財育成の拠点整備事業についてでございます。

新年度予算のときにもお願いをいたしましたけれども、整備事業といたしましては最終年度ということで予算化をお願いをしたところでございますが、現在の状況と、それからオープンまでのスケジュール等について、御説明をさせていただきたいと思っております。

1番の全体計画図であります、青い濃い部分が、既にこの2階で信大の航空機システム共同研究講座が動いておりますけれども、この1階の共創の場、それからオレンジ色の部分機械科とそれからエントランスについて現在、工事中でございます。

右上の体育館棟、A棟であります、この3月に工事が完了いたしております、1階が、いわゆる工業技術センター等の試験場部分、それから2階がホールでございます、今、この試験場の機能ができますように、今の試験場のほうから機器等の移設をしておるところでございます。体育館棟が、今、完成をしたということでございまして、今、B棟のオレンジ色の部分が動いてるところでございます。

2番の改修整備工事の進捗状況ということですが、この図面でいくと体育館棟の左にあります特別教室棟の取得について、先ほど議決をいただきました。その改修工事の発注を6月にいたしまして、オレンジ色の部分と合わせて、この施設の改修工事は10月までに完了の予定でございます。

外構整備工事があと残るわけですが、7月ごろまでに県との協議を済ませた上で、この中の構内動線でありますとか駐車場ですとか、あるいは排水の関係ですとか、それから外からの案内サインですとか、そうした外構整備工事を年度内にかけてやるという予定でございます。

続きまして、3番ですが、施設の全体像等でございますが、まず全体像につきまして、今までこうした工事中の全体平面図等しかお見せできておりませんが、おおむね全て工事発注が終わってまいりますので、8月の議会までには全体の機能配置、どの棟にどんな施設が入るのか、それはどんな使い方ができるのか、それから構内の動線等を含めて全体像がおわかりになるような資料をつくりたいというふうに思っております。

それから、イですが、施設の設置条例ということでございまして、これもオープンに向けまして条例で定める公の施設になりますので、この点につきまして、これから準備をして8月の臨時会をお願いをして議案をお願いしたいというふうに思っております。

それに合わせまして、施設の呼び方についてを事務局で原案を作成してまいりたいと思っております。条例名称として、今までこの産業振興と人材育成の拠点という名称でありますけれども、広く市民や事業者の皆さんに呼んでいただく名称としてこれでいいかどうかも含めて、少し検討させていただいて、そのことも含めて8月の議会で協議をいただければというふうに思っております。

裏面をごらんいただきたいと思います。この施設の運営管理につきましては、この計画をつくる最初のときから、この新しい施設に産業センターの機能を移して公益財団法人南信州・飯田産業センターに指定管理の方向で今までできております。そのために、

まずは産業センターのほうから施設の運営方針・事業計画・経営見通し等の資料をつくっていただいて、それを検討させていただいた上で第2回定例会で議案の審議をお願いできればというふうに思っております。

それから、全体オープンでございますけれど、一応、施設の建物のほうの改修工事は10月いっぱいまで完了する予定でございますので、指定管理者の指定を踏まえて12月に引っ越しをし、1月以降、全体のこの竣工式典等もできるような準備もしてまいりたいというふうに思っております。

こうした流れで、今年度の、できれば年内に全て引っ越しをして新年早々には、新しい場所で全体オープンというそんなことができるといふふうに動いておりますので、よろしくお願ひいたします。

最後、4番であります。施設運営をめぐる長期的な課題ということで、これは、少しこれからの運営も含めて課題として整理を2点したところであります。

1つは、南信州キャンパスの実現ということで、今、航空機システム共同研究講座が動いておりますけれども、寄附講座でありますので、これは限りがある、期間があるものでございますので、そこの実績をしっかりと上げて、信州大学がきちっとみずから運営をできるような講座としていくために、そのためにはやはり、しっかりと実績を上げるということ、それから、さらに今までの寄附講座のノウハウを生かして新しく別の分野でも学生が学べるような状況をつくっていく、そうした形で名実ともに南信州キャンパスの位置づけになるような、そうしたことを目指していく必要があるかなというふうに思っております。

それから、もう一点は、公的試験場としての機能強化ということでございます。施設整備に限ってだけではなくて、本当にこの地域、日本に一つしかないような高額な検体機器も含めて整備がされておるところでありますけれども、そうしたものがしっかりと使われる状況にするためには、その試験場の運営も大事でございますし、試験結果を保証できる人的な体制も必要となつてまいりますので、私どもだけではなくて、国や県と一緒に運営主体のあり方をしっかりと検討し、進めていく必要があるかなという思いであります。

以上、2点、これからも進め方の中で課題として整理をしたところでございます。

最後に、一番最後の2は、スケジュール感を帯グラフでつけてございますので、またごらんをいただければと思っております。

以上でございます。

(清水議長) 説明が終わりました。御質疑はございませんか。

(「なし」との声あり)

(清水議長) なければ、説明のございました産業振興と人材育成の拠点整備事業については、聞きおくことといたします。

(7) 調査研究プロジェクトの今年度の取り組みについて

(清水議長) 次に、(7) 調査研究プロジェクトの今年度の取り組みについてを議題といたします。理事者側の説明を求めます。

松江事務局次長。

(松江事務局次長) それでは、調査研究プロジェクトの今年度の取り組みについて、御説明いたしま

す。

資料ナンバーの5をごらんください。広域連合では、広域的なさまざまな課題に対しましてプロジェクトを幾つか組んで取り組んでおります。現在、8つのプロジェクトが動いておりまして、本日はそのうち6つのプロジェクトについて、取り組み状況について御説明いたします。残りの2つのプロジェクトですが、広域観光リニアプロジェクトというものでございますが、これは先ほど御説明いたしましたDMO登録の関係のプロジェクトでございますので、省略させていただきます。それからもう一つ、大学連携プロジェクトというのがございますが、これはさまざまな取り組みの中で大学とうまく連携しながらやっていこうということですので、各プロジェクトの中に取り込んでおるものというふうに御理解いただきたいと思っております。

それでは、各プロジェクトについて御説明いたします。

まず、1ページの調査研究プロジェクトの1、民俗芸能保存継承プロジェクトでございます。これは、当地域には、多様な民俗芸能が存在しておりますけれども、人口減少や高齢化などの理由から継承や存続が難しくなっておりますので、後継者の育成、あるいは民俗芸能の映像を記録保存することで民俗芸能を将来に引き継げるようにしていきたいとするものでございます。

目標としまして、2点ございます。(1)に継承推進事業ということで、これは後継者の育成に取り組んでいきたいというものでございます。(2)は、資産化事業ということで記録保存でございますが、国、県指定・選択無形民俗文化財の映像記録保存を進めていこうとするものでございます。

平成29年度の取り組みは、継承推進事業につきましては、南信州民俗芸能継承推進協議会、こちらにおきまして発表会であるとか勉強会であるとかワークショップであるとか、さまざまな機会を通じて取り組んでおります。

おめくりいただきまして、2ページ目に資産化事業について記載してあります。現在、取り組んでおりますのは、平成31年度までの3年間の事業ということで、清内路の煙火等資産化事業に取り組んでおります。これに先立ちまして、平成27、28年度には、新野の雪祭りの記録保存に取り組んできておりました。

課題としましては、いずれにしましても存続を維持するためには、しっかりと県、国等の協力をお願いしていかなければいけないということと、有効な補助金を使っていかなければいけないというふうなところを課題としておるところでございます。

30年度の取り組みにつきましては、協議会における発表の機会を引き続きもっていくということと、資産化事業につきましては、清内路の花火について進めていくと、それから各市町村でもってさまざまな補助金を使いながら市町村の補助も頑張ってもらいたいというふうに思っているところもございます。

続きまして、3ページ、プロジェクトの2番、ICT環境整備利活用研究プロジェクトでございます。これは、関係人口への対応、あるいは交流人口をふやすというようなこと、企業誘致、移住定住促進、こういうことにICTというものが活用できるという可能性があるわけですが、地域全体のICTのインフラ整備を進めることと、それからどういったものがICTに活用できるかという検討を進めたいとするプロジェクトでございます。

目標の(1)が、ICT環境整備ということで、ハードについてのところござい

す。市町村におけます光回線の整備、その方法、財源等にかかわる情報提供をしていきたいとするものでございます。(2)は、利活用についてでございます。この利活用につきましても、市町村のほうへ最新情報を提供すると、それと市町村の職員の皆さんのスキルアップとICTに関する可能性について理解していただくということが大切だなというふうに思っております。

平成29年度は、NTTの光回線の整備、これにつきまして、特に光回線の未整備地域であります西南部地域情報担当者の皆さんに集まっていただきまして、理解を深める勉強会を開いております。

課題としましては、環境整備につきましては、どういった財源を確保していくかということと、現在、自主運営放送というのが同軸ケーブルで行われておるわけですが、これを光化にどのようにさせていくかといったようなものが課題でございます。

利活用につきましては、光回線の有無によって住民サービスの地域格差が将来広がる恐れがありますので、これを拡大させないために市町村担当者の専門知識の向上というのが大切かなというふうに考えております。

30年度の取り組みとしましては、ハードのほうにつきましては、西南部地域における具体的な検討を進めていただくために、いろいろなパターンにおけますシミュレーションをすることによって、メリット・デメリットをはっきりさせたいなというふうに考えております。

利活用につきましては、市町村ICT担当者や情報通信事業者等と連携してプロジェクト会議を立ち上げまして整備効果でありますとか、あるいは先進地の視察について研究していきたいなというふうに思っています。その中で、ICT利活用によるまちづくりに取り組んでおりますNTTドコモさんと連携しまして、ドコモさんがお持ちの知見でありますとか資料提供を継続して受けていける体制をつくっていききたいなというふうに考えてるところでございます。

続きまして、5ページのプロジェクトの3、景観形成プロジェクトでございます。リニア時代を見据えまして、持続可能な地域づくりを進める観点から、景観というのは、非常に大きな要素であるというふうに思いますが、景観、非常に広い分野でございますので、その意義やあるべき姿について理解を深めて、どういった取り組みができるかということを探っていききたいなというプロジェクトでございます。

目標としましては、市町村と広域連合が景観という視点で果たす役割は、それぞれあるだろうと、そういうのははっきりさせていきまして広域連合として取り組むべき分野を整理して取り組んでまいりたいなというふうに考えております。

29年度は、まだまだ緒についた段階でして、講演会の開催をしております。県側と地域づくりの関係性について学ぶという段階でございます。そういうごく初期の段階でございますので、課題も幾つもございます。

①としまして、広域連合の広域計画の中には、景観という概念は書かれておりますけれども、具体的なプロジェクトに位置づけられておりませんので、取り組みも具体化されていないというところはございます。

一方、②でございますが、長野県では景観条例というのがございます。それから、上伊那、木曾地域では、実際に統一看板をおつくりになってるというふうな具体的な取り組みも行われておりますが、当地域につきましては、まだまだ抽象的な段階におるとい

うところでございます。

③としまして、そういう上伊那とか木曾地域のような統一サインというような検討をする上におきまして、それぞれの市町村でも独自の取り組みをされてますんで、そうしたところとの合意形成のプロセスが大切かなというふうに考えております。

おめくりいただきまして、平成30年度の取り組みとしては、市町村担当者皆さんの学習会を進めていくということと、プロジェクトの方向性についてしっかり見定めていきたいなというふうに思っております。

そこにマスがございまして、左側が市町村の役割分担、右側が広域連合の役割分担というふうに、ちょっと簡単に整理をしてみました。この中身につきましては、これからの検討ということになるわけですが、右側の広域連合のマスの1つ目の点にリニアや三遠南信自動車道を見据えた来訪者に対する目的地までの案内整備というようなものが、先ほどの統一サインというような考え方でございます。

続きまして、プロジェクトの4、7ページでございます。マーケティングの視点による持続可能な地域づくりプロジェクトということでございまして、地域づくりというのは、こちらからの視点、自分視点ではなくて、主に都市部の企業・住民といった相手方の視点によるアプローチというものの必要だというふうに考えておまして、それをマーケティング思考というふうに考えております。この視点で事業を実施をし、そのノウハウを広く波及させていきたいなというプロジェクトでございます。

目標のところを書いてありますけれども、平成28年度に市町村から若手の職員を出していただきまして、マーケティング研究会というのを開いております。ここから具体的な取り組みにつながってる事業がございますので、それについて御説明いたします。

3の(1)自信と誇りの持てる農業の再構築というものでございますが、この地域、中山間地で狭隘な農地で、とれる量も少ないというところがございますけれども、都市との一定の関係を築きまして都市のニーズを直接取り入れることによりまして、少量でも多品種、そして高付加価値、それから広域的な連携によって安定した販路を確保することで農業の活性化を図っていきたいなというものでございます。

アでございますけれども、まずは気候的に似通っており付加価値をつけやすいという観点から、イタリア野菜というものから実証を始めております。このイタリア野菜を都市圏のほうで使っていただけるスーパーやレストラン、こういったものと協力関係を結びまして、さらには、地域内でこういった新しい品種について栽培していただける農家・協力者を見つけて実施して蓄積を立ててきております。

次のページ、めくっていただきますと、平成30年度取り組みということでございます。これまでは、若手の職員のプロジェクトにより行ってきた事業でございますが、より実践的な取り組みに、これからはなってきますため、市町村の農政担当職員にプロジェクトメンバーになっていただきまして、中山間地域における一つの農業の形を構築していきたいなというふうに考えております。

真ん中の表ですけれども、この表の一番下にマーケティングフォースジャパンというのがございますが、これは都市の企業との調整に当たっていただいているマーケティング会社でございます。それから真ん中の囲みの右下のところには南信州山都共同社中というふうにはございますが、これはNPO法人でございまして、地域内の連携を担当していただくというような組織でございます。こうした組織とも協力しながら仕組みづくりを

進めておるところでございます。

ウに目指す組織イメージというのがございますが、市町村、それから農家、それと都市部とを結びつけるという事業でございますが、ただいまは、広域連合がこの間に入っておるといような形になっておりますが、将来的には実施主体となる民間団体を育成・構築していきたいというのが最後の目的という形になります。

次に9ページ、2つ目の取り組みですが、一村一企業ダーチャ運動というのがございます。地方には、もちろん課題もございますが、都市の人々にとっても自然体験不足とか都市生活でのストレス・精神疾患増など、さまざまな課題を抱えております。この一村一企業ダーチャ運動というのは、この地方の課題と都市の課題を地方と都市が結びつくことによって、それぞれ解決していこうという事業でございます。ダーチャというのは、ロシアで一般的に行われております菜園つきのセカンドハウスでございます。都市と田舎を行き来するというものでございますが、これにヒントを得まして地方から都市に提供するライフスタイルという観点で、特に菜園とか農業とかいうことにこだわるわけではございませんが、地方の資産を都市のほうでうまく活用していただくという観点から取り組んでいるものでございます。特に、都市部との関係をつくるに当たりまして、個人というのももちろんありますけれども、この事業では、継続性と、それから規模ということを考えまして、都市部の企業をターゲットに、都市部の企業と市町村がそれぞれ結びついた関係がつかれないかなということで進めておるプロジェクトでございます。

アにモデル的な取り組みによる実証実験ということがございますが、まず、企業を受け入れる準備段階として、この地域として何ができるかということで、モデルダーチャとして農地の開墾作業をプロジェクトで行っております。この開墾作業というのが、都市部の方から見ると、なかなか魅力的な取り組みというふうに言われておりますので、これをどういう形で受け入れたらいいのかというような実証をしております。

イの30年度の取り組みにつきましては、先ほどの農業のところと表的には、ほぼ同じような形でマーケティングフォースジャパンと南信州山都共同社中、これらの組織と連携しながら取り組んでまいります。

次に、10ページをおめくりいただきまして、目指す組織のイメージ、これにつきましても、先ほどの農業と同じで、最終的には実施主体となる民間団体を育てていきたいなというふうなものでございます。

続きまして、11ページ、プロジェクトの5です。南信州移住促進プロジェクトですが、これは広域的な連携のもとにUIターン希望者への情報提供というプロジェクトでございます。目標としましては、まずは、南信州という名前の知名度を上げていくということと、それから受け入れ体制を整備していこうということでございます。

29年度の取り組みとしましては、移住セミナーなどごらんとおり開催いたしております。

課題といたしましては、セミナーなどは広域的に取り組むを行いますが、実際の相談者は市町村ごとの対応となりますので、市町村のほうの窓口であるとか、あるいは必要な情報がスムーズに提供できる体制をつくっていただくということが、一つ課題でございます。それから、2番としまして市町村・県・広域連合、それぞれ連携しながら取り組んでおるわけでございますが、役割が明確でないところがありましたので、マニユア

ルをつくっていききたいなど、それから南信州の知名度のアップに取り組んでいききたいということでございます。

30年度といたしましては、セミナーの開催はもちろん行っていくわけではございますが、(3)にありますとおり、旅行商品・ツアーの検討と、相談会に来ていただいた方に実際に、この地に来ていただいて実体験をしていただくというようなこともしてみたいなというふうに思っています。

最後、13ページ、プロジェクトの6、広域観光交流プロジェクトでございます。これは、観光推進を市町村の枠にとらわれない広域的な観点で行っていくというものでございまして、29年度は、アにありますとおり、観光PR、それからウに書いてあるとおり、さらに広域的な伊那路でありますとか三遠南信でありますとか伊勢志摩でありますとか、大きなくくりで連携をして取り組んでおるというものでございます。

30年度の取り組みとしましては、先ほど南信州観光公社に地域振興室ができましたので、ここともしっかり連携しながら取り組んでまいりたいなというふうに考えております。

プロジェクトについての説明は、以上でございます。

(清水議長) 説明が終わりました。御質疑はございませんか。よろしいですか。

(「なし」との声あり)

(清水議長) なければ、説明のございました調査研究プロジェクトの本年度の取り組みについては聞きおくことといたします。

(8) 稲葉クリーンセンターの運転状況について

(清水議長) 次に、(8) 稲葉クリーンセンターの運転状況についてを議題といたします。理事者側の説明を求めます。

北原飯田環境センター事務長。

(北原飯田環境センター事務長) それでは、稲葉クリーンセンターの運転状況について御報告申し上げます。

資料ナンバー6をごらんください。本資料は、今週5月21日月曜日に開催いたしました平成29年度稲葉クリーンセンター連絡協議会定例会の資料でございます。

御案内のとおり稲葉クリーンセンターにつきましては、試運転を開始いたしました昨年9月からごみの受け入れを始めてまいりました。

次第をおめぐりいただきまして1ページをごらんください。最初にごみの搬入量ですが、昨年9月から3月までの7カ月間で、委託収集分が1万570トン余、直接持ち込まれたごみが5,400トン余、合計で1万5,973.79トンでございました。これは、前年の同時期と比較いたしますと、15%程度、約2,159トンの増加となっております。

ごみの増加の要因といたしましては、やはりプラスチック類や革製品などが新たに燃やせるようになったことと、これまで各家庭に蓄積されていた同種の埋め立てごみが搬入されたことにより増加したと考えられますが、施設の運転に支障はなく、焼却炉につきましても問題なく焼却処理しております。

なお、③番には、搬入車両の比較をしておりますが、搬入されるごみ量が増加しておりますことから、同様に搬入車両も増加の傾向にあります。ただ、全体的なごみの搬

入量の推移につきましては、この半年間だけでは推測しがたい部分もあるため、1年間を通じて慎重に搬入状況の推移を注視し、検討していく必要があると考えております。

なお、②には、市町村別の搬入量を、④には、ごみ組成分析結果を、⑤には、視察・見学者数を記載してございますので、御高覧いただければと存じます。

続きまして、(2)の環境測定分析結果について御報告いたします。

3ページをごらんください。排ガスの測定につきましては、ばい煙、ダイオキシン類の測定を、焼却灰につきましてもダイオキシン類の測定及び溶出試験を実施いたしました。また、周辺地域と締結いたしました環境保全協定のもとに周辺の環境測定を2月に実施しており、29年度は、大気の測定を4カ所、騒音測定を2カ所実施しております。測定結果につきましては、いずれの調査も環境保全協定値を遵守しており問題がないことを確認しております。

今後も施設の運転及び周辺環境に細心の注意を図り、安心・安全な運転に努めるとともに、ごみの搬入量の推移を注視しながら、各市町村の担当部署と情報を共有し対応してまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

以上でございます。

(清水議長) 説明が終わりました。御質疑はございませんか。よろしいですか。

(「なし」との声あり)

(清水議長) なければ、説明のございました稲葉クリーンセンターの運転状況については聞きおくことといたします。

(9) 飯田広域消防本部から

(清水議長) 次に、(9)飯田広域消防本部からを議題といたします。理事者側の説明を求めます。

初めに、関島消防長のほうより説明いただきまして、引き続き、塩澤警防課専門幹及び有賀警防課長の順に説明をお願いしますので、お願いします。

(関島消防長) では、お世話になります。飯田広域消防本部からは、熱中症疑いによります救急搬送の状況、また4月2日に発生いたしました飯田市千代野池の林野火災の概要につきまして、担当から御報告をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

(塩澤警防課専門幹) 警防課専門幹の塩澤です。資料7をごらんいただきたいと思います。熱中症に対するリーフレットでございます。このリーフレットは、ホームページに掲載してありますが、住民等の配布チラシでございますので、御確認をお願いいたします。

次に資料7-2、最終ページになります。熱中症疑いによる救急搬送の状況をごらんいただきたいと思います。本日現在、熱中症疑い救急搬送人員は5名です。屋外で3名、屋内で2名発生しております。学校等でポスター配布や救急車の帰署途上における広報を行うなど、連合長の挨拶にもありましたように、さまざまな機会をとらえて熱中症対策に取り組んでまいります。皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

(有賀警防課長) 警防課長の有賀でございます。それでは、引き続きまして飯田市千代野池林野火災について御報告を申し上げます。

資料7の最初から2枚目のページまでお戻りいただきたいと思います。この火災につきましては、平成30年4月2日午前11時31分に出火をいたしまして、ごみ焼けの火が起因し、建物へ、または建物から林野のほうへ延焼拡大したものでございまして、4.55ヘクタールを焼損し、24時間後鎮火に至ったものでございます。

初めに、4ページまでおめくりいただきまして写真をごらんください。5ページ目に写真を掲載してございますが、最初の写真は、火災当初の防災ヘリによる上空偵察の様子でございます。裏面にいきまして、裏面の写真につきましては、ヘリの散水の状況と地上部隊の消火活動の様子を写真掲載してございますので、御確認をお願いいたします。

それでは、お戻りいただきまして、2ページからお開きいただきたいと思っております。2ページには、ヘリコプターによる消火活動の状況、続きまして2日間にわたる消防活動の詳細をまとめてございます。2ページ以降、随時、消防活動の様子をごらんいただきたいと存じますが、今回は、昨年5月の飯田市南信濃の林野火災、この検証を踏まえる中で、早期のヘリ要請を行っております。写真で、今、ごらんいただいたとおり、防災ヘリによる偵察の結果をもって、さらなる応援部隊の増隊要請、具体的には、防災ヘリの広域応援要請や自衛隊の災害派遣要請について、早期の決断へと結びついたものと考えてございます。

また、一方、地上部隊におきましては、2日間にわたる地元飯田市消防団との連携によりまして、部隊編制を行い、ともに消火活動、鎮火確認までを行い、被害を最小限に抑えたのではないかと考えておるところでございます。

また今回の災害の指揮体制に目を向けますと、また、申しわけございませんが、1ページにお戻りいただき1ページの4にございますとおり、通常の火災現場における現場指揮本部のほか、飯田市の危機管理室に林野火災警戒本部、また千代の自治振興センターに現地対策本部を設置いたしまして、ここには飯田市長以下消防のほか防災航空隊、自衛隊、警察など各関係機関が集結し、円滑な連携のための対策がとられたものと加えております。

この事案をほかの町村で発生した場合に置きかえて考えてみると、指揮隊は、指揮体制はどんな形になるのか、またどんな課題が見えてくるのか、そういったことを念頭に置きまして、今後も引き続き検証と対策をとってまいります。

また、こういった火災におきましては、交代要員や支援要因を含めて人海戦術にマンパワーを必要とするために、今後も市町村・消防団の皆さんと連携をより強化する中で対応してまいりたいと存じます。

以上、報告とさせていただきます。

(清水議長) 説明が終わりました。御質疑はございませんか。よろしいですか。

(「なし」との声あり)

(清水議長) なければ、説明のございました飯田広域消防本部からは聞きおくことといたします。

(10) 議員視察研修について

(清水議長) 次に、(10) 議員視察研修についてを議題といたします。理事者側の説明を求めます。

加藤書記長。

(加藤書記長) 既に、御案内のとおりではございますが、今年度の10月22日、月曜日から23日火曜日までの2日間、南信州広域連合議会の議員視察研修を行いたいと思っておりますので、議員の皆様方におかれましては、日程の確保のほう、改めましてよろしく願いいたします。

また、研修先につきましては、現在、検討中でございますが、御意見等ございました

ら事務局まで御連絡いただきたいと思います。以上、よろしく願いいたします。

(清水議長) 説明が終わりました。御質疑はございませんか。

(「なし」との声あり)

(清水議長) なければ、説明のございました議員視察研修については聞きおくことといたします。

予定の案件は全て終了しました。その他、何かございませんか。

(「なし」との声あり)

(清水議長) ないようでございますので、以上をもちまして、全員協議会を閉会といたします。大変御苦労さまでした。

閉 会 午後3時10分